



巻九 雑作

巻十 仰所仰歌

頭書古今和歌集巻第九

雑作

雑作

雑作

よき人なれば



是ハ意のきりこ
さねもつこも
あててのきりあ
がれれれれれれ
古作とてあわだ
そのまゝとてあ
弘仁のころすま
人のまゝとてあ

あふきの おれあふふふ おひさめ こふあつね子
何れが此 ちこまき丸 づのねの ちこつこふふ
おとこも あふてかへ あふてま 人さつこん
こころの おまじふふふ おひてー おひむらん
いばこあふてふり かくぶの ためし用あふ

のん飛三ー子不
 ありの葉とさふ
 おきし 船とち
 がひて期ハ天よ
 崎き大平中 以
 うらとさやう
 てよう

こちにて ちのあまけも ねとやん ひろくこころ
 むくまき かくあれども ていりり ちままりのれ
 身あしと ことうハ杖乃 くらんよ ちまむき出で
 こまきやう ことハのさの こまきやう ちまーくも
 おのやん ことのあきぬれ 中やぐち あじのれを
 まるきりきくハ折山や ちうたれぞ 妻ハりすこよ
 まびれ ちハうつせと かきくじ 杖を肘まふ
 神とー 身ハまどまぞ せめらや ちまーひーき
 身あも つれる年と ちまをまび ころのむつお

ワヤガウとづあ
 てマムんこま

ありあがり これさきさふ ちまーの おのりだま
 やままび 身ハうーて ころたうき ちまのさーさ
 ちまーつ あがれ持の あがーつ 形ハれこふ
 ころ浪の 形ハあさや おあれん さあまのち
 とーるバ ちのまあさ ちまやまの うーらハちう
 形ハぬも ねとハれ持の ちままき ちままき
 ちまうも ちまハち代 ちま ちまん
 やまぬく ちま世の ちまおのまきとよあいとちま
 けともいふ ちまよあを ちま計おの ちまきくとちま

ひまわりの中月
とくまの月の人
んまぐくはま
るまぐく

おきりそこ あれのこまき
まのまの 年へくまじ
しものまき ねまぐく
うまきま 子まのつら
時ぬみく 林のぬま
ひまぐく おのぐちぐ
あれまが ねまぐけあ
ねまぐま ねまきま
まらうの おまぐく
よままま

旋歌奇

仔細

わすれりあが
まままが
くまぐ

歌一

よまま

まら後すとちまら
まらまらまら
まらまらまら

○うまらまらアキカ
まらまらまら

まらまらまら
まらまらまら

まらまらまら

まら

まらまらまら
まらまらまら

まらまらまら

まらまらまら

あまのこゝろを
かへりて

秋風のそよぐをよみて女師をよみてのそよぐをよみて

○あまのこゝろをよみて女師をよみてのそよぐをよみて

くそよぐをよみて 秋風のそよぐをよみて

あまのこゝろをよみて

あまのこゝろをよみて女師をよみてのそよぐをよみて

○女師をよみて女師をよみてのそよぐをよみて

アフレドモ女師をよみてのそよぐをよみて

ゆふくをよみてのそよぐをよみて

かのをよみてのそよぐをよみて

こゝろをよみてのそよぐをよみて

と他のゆゑに

実年の所耐まよひのそよぐをよみて

あつ糸おねやか

秋風をよみてのそよぐをよみて

○秋風をよみてのそよぐをよみて

キリくさかた

あつ糸おねやか

雪とゆゑに

まろくすはつぐき
せうめひをよみて
ゆめをよみて
とあるやまをよみて
もあつ糸おねやか
ら

お城の書本をよみ
くまをみる

か

まよりのつやぬ

まよりのつやぬのそとに中城よりぞむはちりのた

○まよりのつやぬのそとに中城よりぞむはちりのた

テサカヒ極の上カラサソまを花カサテラルワイ

影しづか よし人あらず

いそのまのつやぬのそとに中城よりぞむはちりのた

○いそのまのつやぬのそとに中城よりぞむはちりのた

年久レウレタ多正世ガ入ッテソマ意ガタッテ オレハ夜ルモエ子

ムラマ

いそのまのつやぬのそとに中城よりぞむはちりのた
そのまのつやぬのそとに中城よりぞむはちりのた
とつやぬのそとに中城よりぞむはちりのた

神代記のつやぬのそとに中城よりぞむはちりのた
とつやぬのそとに中城よりぞむはちりのた
とつやぬのそとに中城よりぞむはちりのた

○おれは夜ルモエ子居ルニ枕の方カラモ赤ノ方カラモ西方カラモキ

リニ意ト云思メカセヨモテケルヨッテアトモヨラズサキヘモヨラ

レズドガモモウカナナニ味ニ市ニサオレト起テ居ル

とつやぬのそとに中城よりぞむはちりのた

きあらずとつやぬのそとに中城よりぞむはちりのた

泥まよりのつやぬのそとに中城よりぞむはちりのた

まよりのつやぬのそとに中城よりぞむはちりのた

○ドレハ意ラスル人形デモヤツレガモオリナガラモソノ身ハアル

まよりのつやぬのそとに中城よりぞむはちりのた

まよりのつやぬのそとに中城よりぞむはちりのた

此の月のおまねも月とあひくるとあつたのあつて
又おまねく子燦燦とあつてたゞおまねくつり。能村おまね
てよりおまねひおまねておまねたゞおまねくつり。おまね
おまねくつりおまねておまねて居る。

寛平、おまねくつりのおまねくつりのあ

おまねおまねくつ

二の白ハ、おまねの
おまねおまねのあつて
おまねくつりおまねくつり
おまねくつりおまねくつり
おまねくつりおまねくつり
おまねくつりおまねくつり

くつりおまねのあつて
おまね

おまねくつりおまねくつりのあつておまねくつりおまねくつり

五
おまねくつりおまねくつりおまねくつりおまねくつり

おまねくつりおまねくつりおまねくつりおまねくつり

ラレテおまねくつりおまねくつりおまねくつりおまねくつり
おまねくつりおまねくつりおまねくつりおまねくつり

おまねくつり

おまねくつり

おまねくつりおまねくつりおまねくつりおまねくつり

○おまねくつりおまねくつりおまねくつりおまねくつり

おまねくつりおまねくつりおまねくつりおまねくつり

おまねくつりおまねくつりおまねくつりおまねくつり

おまねくつり

おまねくつりおまねくつりおまねくつりおまねくつり

おまねくつりおまねくつりおまねくつりおまねくつり

うきやうとておぼ
うきやうとておぼ
うきやうとておぼ

多心デモカレガヤ 紅^ア牙^クけまうらうとものく 初^ハとをまて
うら。

うきやうとておぼ
うきやうとておぼ
うきやうとておぼ

○人^ニキヌル、ワガオハ春ノ駒カレテ、テウ^マキ^コヨ^クヲ^クテ^クガ

テラ^ニナ^レテヤ^ウテカ^マハ^ズニ^オウ^ヤウ^ニ、ワ^ラカ^ステ、子^カカ^マ

文

うきやうとておぼ
うきやうとておぼ
うきやうとておぼ

○^ニス^レス^ルニ^テイ^ム 一二 ^ニイ^モニ^レテ^レニ^ウテ^ウカ^ニラ^ヌ
上^ニる^ニ ^ハ初^ハ此^ハ流^キの^ニあり、お^ハ子^ヤの^ニあり

うきやうとておぼ
うきやうとておぼ
うきやうとておぼ

うきやうとておぼ
うきやうとておぼ
うきやうとておぼ

○オ^レモ^夏ノ^間、タ^ハイ^シコ^ウニ^暑イ^ニヨ^ッテ^独寝^ヲス^ト ^人十^ミ

ニ^云テ^マガ^ラカ^レテ^オケ^レバ^冬ニ^ツテ^此ヤ^ウニ^寒イ^夜独^寝

ル^ハ、何^モニ^モヤ^ウガ^ナイ

平^ナ中^ノ奥^ナ

うきやうとておぼ
うきやうとておぼ
うきやうとておぼ

○^逢キ^モモ^ウ今^デハ^ハツ^クナ^コト^ニツ^テ夜^ガフ^テカ^ラテ^ナケ^レバ

重^サリ^ヤク^ガテ^ケヌ^ワイ ^之の^向ぬ^ルの^よて^子と^ハ

うきやうとておぼ
うきやうとておぼ
うきやうとておぼ

赤の上の...
こと...
つ...
...
...

くまのい...
イロコ
...
...
...

くま

よま...
○ソチ...
...
...

へ何...
物...

この向...
...
...

歌...

さぬき

福...
○ソチ...
...

あ...
...
...

つゝ我は修しや
杖とつゝお甘ふと
まのうももまを
も山落し八敷つき

ゆきあふそらう。楢掛右平が下白を。歌まのまよふ
よそりて。それ木のまをて。杖とある形えとよめ
歌まのて切てなぶぐ。修しを修の母。あけまの森
とゆめあふそらう。このまをなぶぐ。まよふ
ひがまもま。森のまあふ。まはつ。まよふ。このま
ろ

大楠

○イウく、歌まが山やウラモツタバヤモス。ヒヒモノ。ツツ。杖ヲ

て形やふまよ
アの杖と杖
よま

ツツ。ツツ。杖と杖。木とま。山とま。まよふ。杖と杖。まよふ。

よこ人まよ

下と世の中
かまよふと
あふまよふ

かまよふと。あふまよふと。あふまよふと。あふまよふと。

あふまよふ
あふまよふ

○まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。

○まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。

○まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。

ら月ハ許されあ
よりコトモていひ
さそくろくおや
らるるるるる
ん年
らるるるるる
く此里まへ又まへ
これこののの
よるるるるる

よめてあるとす

おのちのちふせ入るるるる月の日れて抱ふふらるるも月丸
○上ッゴ只マア世もくワリオ物もヒラスルカチ

らん子そとすれはうりかくすれあふひあふあふまきまき

○トウレカヨカラウカカウレカヨカラウカトレウキテ定ムシ

「ナイロくニ名案ヒテ見テヨレウキヲツ名ヒタイテサウキ

ヤト見テツツ見リニスバ又オハシカカアリ又名案ヲカハ

テテ見レ又オハシカカアリトカ多世中ノコトハアト

ウモナヌモノチヤ一方カヨレバカカワルウテ

このウのトあありどのふととそとてんるるど
あふりせふべつとをふけりとのと餘材とるー但ー
そとあはは子古今と多々集と引さるる者ありその
まきり

ほ扱
よの中あまらね
山子多きとる谷
のんやまらまら

世の中のうまをたあがとるるるるるまき谷をほくおひね
○世中ノウイヌゴトニコレバくト名フテ人カ身ヲケ多クテ死

ガオビタシウツモツテ深イ谷ガサ浅ウテアライヤハヤカニウ

イ「多イヨノ中ナレ

在るわくめ

宇ま音と西ハ
久し月あり

ま〜〜猪の〜
あり〜〜
猪俣三吉後注
葉又三吉後注

ふのむほてのほろこむれびやすきおこのころのいふらん

○梅色候テチツテレウタ路へ九実ハ酸イモノガガオトハ

ノ梅ノ実ガヤラレテ人ガタレデモオレバヌキモガヤクト

云破と竹色とてめてる。

はるあがふお〜〜あ〜〜うらな〜山

うの子さ〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と

ころぬ

こび〜〜ま〜〜ら〜〜啼〜〜星列の山のうひあるるふふやえ

○猿ヨソヤウニ雅義サウエリナキイ 今日ハハありニニ

モ法自孫所幸ガアツテ 山ノカミレテアルカヒガアルデ年一カ

アリガタイ日ギヤゾ今貝

影〜〜伏

お〜〜あ〜〜ず

世てゆひこのふとふまよりてらぶ〜〜珠のあされまぬふり

○此コモハ世ライトウテ二所不仕僧イツモ上ナリトキキカカ

ニホカゲ合ヨツテハ帯ナドモトカズイソクテ寐ル 五倍子

漆ノ染衣デゴサル ころぶ〜〜ハ非代紀子金糸とあ

る金とあさ〜〜してそのあ〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と

おか〜〜らむき子臥スあ〜〜又おさ子五倍子〜〜

六帖よどみのね
がとあり
巻原の集とる
母未の句梅のま
あ〜〜あ〜〜ヨ
い〜〜ト〜〜と
の集ハ〜〜と
おのよ〜〜又
お〜〜と〜〜と
ア〜〜と〜〜と
と〜〜と〜〜と

防馬ふす中野の野
人が猪のさかひその
中の一ツ

地味とさわかかと
ハ正かやまらふりとい
あり

非あまびの母目ま
りてと弁もやんま
どう物のみあり

志らう山がう

志らう山うちやて見北バク子あひのあまらう柳子いどぶの

○レハツ山カラズツト出テ見レバコトテゆふ舟ガアレ 登ミコトノ

島ノアタリヲユクワ

非あまびのさう

さうりのさう

非がきのさうり北山のさうき葉は非のま更子茂るあひのさう

非がががけいどうれせぬ掛葉のさうらやま非のまねうと

まねふ根もくすふとも非のさうありまとお根

こいふハ万葉子と手根ともめくさうまうまう

岩と岩根をさ手根と手根をさういふゆまう

根を流るさうさ非のまねハ非北東ありまう

て抄き集りてさあおあう列の山北林をさうさう

る際子まねる非のまねうれともめくハ既子こ

のさうと正現のさうさあやまうてまめうとさ

たがめう

おまきまのあふの山乃山人もさうさうさう

おまきまのあふとさうさうさうさうさう

と防馬初の方
うやこがくあま
候つらうさう二
とあり

かこ山と残すま
てよあち上まが
残へ兼てまての
うりのわねとぞ
どう

をのやくとれ山とそたれぬてぞあるあちとせ

いまはる上のまへのあちのま

ちあ

こちのくう

あふらとあちちり河ぬとも思さやいしすんじ

○アムラ之川へあがスツトまて夜かアチタリは 君スヤル

イツイナセテ又スルニ待ツアヒカトウモラ

初るまおのあちちりまのまありあち初る

ちばりいめはれまあちまてアハまこれとまて

すえん 餘材子あふらと人こまふもてとまも

アあり

こちのくうづくはあれとあちのくうとて取の縁でまも

○奥州ニトコモカとコモ面白イ野ハ多クアトモ 中テモ成シ

籠浦ヲアレ網手デ船ヲ引テユクアケキカドウモイヘモ

ノデハトイ オモロイフガヤロア

コチノスヲ京ヘヤツテ 留守チウイツモドラフヤスト

持テ居ルサテモまも

舟の縁まハ舟ま
く縁ままて引
おあれハまづア
もつまもまも

ほろを縁まもま
あり

修屋の集解
五十年を経て五日
の間に成るなり

○死んだ人の魂がソラヲ飛テ又カツテ来テモ何ラ見ヤソダ 何モ

見ルモノハナイ ジブン死骸ハヤイテヒツテ灰ニナリタモノ

どうも夜の末夜別ト

それのおも

ほろりゆき

う耐とこひつくと北バタがまのにおゆげのうらやうとさうさ

○タニシバア、今ゴロハズス入来タジブンチヤガト 意のウツテ

居ル其入をタスラ面影ニエテサテモ今ウラアルクウニ見ユルコ

トタ

思子別ト

そらへは志江の
山花ありとてえ
そらニテ年の能ナク
さう

おまのるにや下と 夜の二重なり

おまのりやとやうよりも想ひまはせなむあのおまありや

○カマハ熾火ヲ居テ教身ヲヤクヨリモカナレハ上ル島トノ

別トヤワイ けいふふ人のあつたあへといふへ手こを死

あへといふれといふあへといふ

うらやまのほろりト

そらへの何とて おやえとち

うまのよきまのあつたあつたの北朝のあつたあつた山のあつた

○教ラ今世申ノウイフストニトカレテヨシニ見テ重ク

